

賢問49：やってみよう

- 1) あなたの友人の家族と、あなたの家族のユニーク「差」を、5つあげて下さい。
- 2) あなたの仕事の「場」を設定してみてください。
主役は？ 場所は？ 時は？

4. 4 基礎哲学2： 目的的情報の原則

(1) 「情報・知識は力なり」は本当か？

目的的情報の原則は、目的に適した情報という意味で、目的「適」情報の原則とも呼んでいます。「情報・知識は力なり」という従来のパラダイムが、最近崩壊し始めています。情報が洪水のように私たちに襲ってきています。私たちは、溢れる情報の中でもうすでに溺れかけています。セオドール・ローザックは、「情報は、断片的事実の小さな包みで、時には役立ち、時には無駄になり、それは、思考の本質ではない」と述べています。情報は、現実ではなく、多くの間違い・偽りや人間の色眼鏡が入っています。また、従来の方法では、情報や知識を集めるのに時間がかかりすぎ、「考える時間がない」というのが、現代の兆候です。ますます人類は、情報に振り回され、考える時間を失っています。私たちは、情報収集のパラダイムを転換する時期にきているのではないのでしょうか？

デカルト思考の情報収集の特徴は、真実を探求するために、できるだけ多くの情報を集め、実証することでした。情報が多ければ多いほど、その真実の精度は向上するので、人々は、情報が多いと安心したのです。第4. 3図に示すように、デカルト思考の情報収集のパターンは、最初の段階では収集情報が多く、段々と収集情報量が少なくなっていくという「逆三角形型情報収集」のパターンになります。また、デカルト思考の集める情報とは、問題を探索するための「問題に関する情報」です。問題に関する情報を集めれば集めるほど、「問題の専門家」をつくることになります。しかし問題の専門家は、問題を指摘することは得意としますが、このような専門家は解決策をもたないのです。最近増えてきています。

賢問50：考えてみよう：

それでは、ブレイクスルー思考の情報収集の特徴は、何でしょうか？

賢人則24： 知識の活用が力である
